

はじめに

本書は、母子保健従事者のための基礎的なマニュアル・資料集であり、東京都内で実施している母子保健事業及び関連事業分野の概要を示している。

平成 21 年 3 月の初版発行に際しては、以下の 3 つの課題を踏まえて作成した。1 つ目は母子保健従事者が事業の本来の目的や制度趣旨等を理解しながら事業を行う必要性が高まっていること、2 つ目は母子保健事業に携わる職種や機関が多様化していること、3 つ目は関連分野の広がりに応じて相互の事業を理解し合うことが必要となってきたことである。

近年、母子保健法、児童福祉法の一部改正に続き、成育基本法や医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の制定が行われ、母子保健を取り巻く状況の変化は大きくなっている。さらに、新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い母子保健事業の展開に際しても多大な影響を受けることとなり、新たな視点や発想での取組が求められるようになった。

ポピュレーションアプローチの下で、健診や訪問などを通じて母子の心身のリスクを把握できるという点で、児童虐待の発生予防及び早期発見の効果を期待されるとともに、妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目ない支援をより包括的に多職種・多機関で連携しながら行うことが求められるようになるなど、母子保健従事者が果たす役割はますます重要となっている。

今回、制度改正や最新の知見を反映し改訂を行った。母子保健従事者には、ぜひ本書を活用して、日々の業務や新たな取り組みへの反映、関係者との連携・協働に役立てていただきたい。

令和 4 年 3 月

東京都福祉保健局 少子社会対策部 家庭支援課